

■「個別の指導計画」〈自立活動についての記入部分の抜粋〉

○優先する自立活動の指導目標

・
・

優先する目標なので、数は1~3程度
でよい。

○指導目標を達成するために必要な項目

	1 健康の保持	2 心理的な安定	3 人間関係の形成	4 環境の把握	5 身体の動き	6 コミュニケーション
選 定 し た 項 目 番 号 に ○	(1) 生活のリズムや生活習慣の形成に関すること。 (2) 病気の状態の理解と生活管理に関すること。 (3) 身体各部の状態の理解と養護に関すること。 (4) 健康状態の維持・改善に関すること。	(1) 情緒の安定に関すること。 (2) 状況の理解と変化への対応に関すること。 (3) 障害による学習上又は生活上の困難を改善・克服する意欲に関すること。	(1) 他者とのかかわりの基礎に関すること。 (2) 他者の意図や感情の理解に関すること。 (3) 自己の理解と行動の調整に関すること。 (4) 集団への参加の基礎に関すること。	(1) 保有する感覚の活用に関すること。 (2) 感覚や認知の特性への対応に関すること。 (3) 感覚の補助及び代り手段の活用に関すること。 (4) 感覚を総合的に活用した周囲の状況の把握に関すること。 (5) 認知や行動の手掛	(1) 姿勢と運動・動作の基本的技能に関すること。 (2) 姿勢保持と運動・動作の補助的手段の活用に関すること。 (3) 生活年齢、障害の状態、発達の段階、環境等から分析し、各担当者が優先すると判断したもの。 (4) 身体の移動能力に関すること。	(1) コミュニケーションの基礎的能力に関すること。 (2) 言語の受容と表出に関すること。 (3) コミュニケーション手段の選択と活用に関すること。 (4) 状況に応じたコ

六つの区分と26の項目を相互に関連させて、
具体的な指導内容を作成する。

各項目の詳しい内容は、「特別支援学校学習指導要領解説 自立活動編」を参照のこと。

「なぜできないのか」「何が課題なのか」「どうすればできるのか」等の視点から分析したものを記入。

○選定された項目を関連付けた具体的な指導内容

	時間における指導の内容	教育活動全体での指導（時間における指導を除く）
具 体 的 な 指 導 内 容	○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○
項 目 関 連	1 (3)、3 (2)、4 (2)、5 (1) (3) (4)、6 (5)	1 (3)、3 (4)、4 (2)、5 (3) (4) (5)、6 (2) (5)

斜線の入ったものがC・D部用書式

■個別の指導計画 記載内容

- 1 実態
- 2 長期目標【3年後の姿：①実態（環境、障害の状態、発達の段階、本人・保護者の願い等）から設定。
②生きる力（学校教育目標）の視点】
- 3 短期目標【1年後の姿：①学校でできる今年1年間の目標に具体化】
- 4 優先する自立活動の指導目標
【1年後の姿：①障害による学習上又は生活上の困難を主体的に改善・克服する視点
②自立と社会参加の視点】
- 5 次年度への引き継ぎ事項

健康・身体、学習、社会生活の3つの観点からの記載

※「短期目標」から、「優先する自立活動の指導目標」を設定する場合、次の2点に配慮する。

短期目標には、「自立活動のみの目標」と「自立活動の目標と教科等の目標を合わせた目標」が含まれる。
①「自立活動のみの目標」の場合、そのまま「優先する自立活動の指導目標」としても良い。
②「自立活動の目標と教科等の目標を合わせた目標」の場合、自立活動の目標に設定し直す必要がある。

■次のように考えてみましょう。 ※児童生徒の実態によっては、考える順番が入れ替わる場合があります。

「優先する自立活動の指導目標」

例) 体の各部の動きを意識する

必要な力
「どんな力を付けたらいいのかな・・・？」

現在の子どもの様子・実態
「なぜできないのかな・・・？」

課題を見つける。
「何が課題なのかな・・・？」

「具体的な指導内容」に、「どうすればできるのかな・・・？」を記入する。

特に麻痺の強い左手を意識する力をつけることが必要だなあ・・・。

学習場面で、よく左手が机の下にあるなあ・・・。見てないことが多いなあ・・・。

左手を視野の中に入れることが必要だなあ・・・。

足こぎ車椅子を使ってみよう。重さのあるゴルフボールを使った指導をしてみよう。握り棒を使ってみよう・・・。

時間における指導の内容

○麻痺の強い左手の状態や動きを意識する。
・足こぎ車椅子走行 ・立位姿勢で左右の揺れ
・ゴルフボール移動 ・体幹トレーニング
・平泳ぎ、水中歩行

教育活動全体での指導（時間における指導を除く）

○補助具を使用しながら左手を意識した学習・摂食姿勢を保持する。
・握り棒の活用
・友人・先生との会話や話し合いの場で、相手の立場や気持ち・状況に応じた言葉を使う。
・手帳の活用 ・デジカメ日記 ・スピーチタイム

相互に関連

前期・後期目標の設定
授業計画Ⅰ・Ⅱの作成

- D
- ・主体的に取り組む指導内容
 - ・改善・克服の意欲を喚起する指導内容
 - ・遅れている側面を補う指導内容
 - ・自ら環境を整える指導内容
- ※段階的・系統的に取り上げる。